

第63回 発電用設備規格委員会 議事録

1. 日 時：2012年12月10日（月） 10:00～18:30

2. 場 所：日本機械学会 第1会議室

3. 出席者：

森下（JAEA）、宮口（IHI）、波木井（東電）、鈴木（JAEA）、伊勢田（新日鉄住金）、高橋（電中研：～15:00）

影山（東大）、森（電気協会：PM）、伊藤（原安進）、浜田（東電）、小山（三菱重工）、川畑（日立GE）

鈴木（中部電力）、吉田（発電技検）、船橋（火原協）、宮口（三菱重工：～15:00）、渡部（HSB）

酒井（東大：AM）、楠橋（JSW）

代理：

永田（日立GE：PM酒井委員）、北条（三菱重工：15:00～宮口委員）、中城（東芝：平山委員）

寺門（日本原電：村部委員）、飯田（東電：小溝委員）、野村（関西電力：白崎委員）

杉江（原安進：15:00～高橋委員）

欠席：

湯原（キャノン研）、島川（川崎重工）、寺井（東大）、舟木（経産省）、菅野（JNES）、増山（九州工大）

オブザーバー：

北条／山本／石生（三菱重工）、山田（中部電力）、堂崎（日本原電）、平（JNFL）、山本（東芝）

杉江（原安進）、小泉（JAEA）、伊藤（東電）、片山（関西電力）、下条（神戸製鋼）、鹿島／三枝（電中研）

永田（日立GE）

事務局：高柳、小沢、海野、釜田、栗津

4. 配布資料：

63-1：第62回発電用設備規格委員会議事録案

63-2：発電用設備規格委員会名簿案

63-3：各専門委員会名簿案

63-4：発電用設備規格委員会幹事会概要

63-5：書面投票結果

63-6：公衆審査結果、質問受付回答状況

63-7：火力専門委員会報告

63-8：原子力専門委員会報告

63-9：材料専門委員会報告

63-10：核融合専門委員会報告

63-11-1：規格委員会書面投票「引用する規格の年版について」意見対応案

63-11-2：ASME BPV Committee on Nuclear Inservice Inspection（Section X I）におけるJSME/ASME Joint Task Group on System Based Codeの設置について

63-11-3：MDEP Convergence Board Memberとしての参加について

63-11-4：設計・建設規格英訳タスク報告

63-11-5：規制庁の動向と学協会の対応

63-11-6：シビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドラインの策定進捗状況

63-11-7-1：外部事象SAガイドライン検討タスク状況報告&ガイドライン案の規格委員会投票実施提案

63-11-7-2：発電用原子力設備規格外部事象シビアアクシデント対策設備設計ガイドライン（BWR編）案

63-11-8：ASME Code Week PhoenixにおけるMDEPプロジェクトSDO打合せ報告

63-11-9：一般要求事項検討タスク状況報告

63-11-10-1：第31回原子力関連学協会規格類協議会議事録案

63-11-10-2：福島第一原子力発電所事故後の原子力安全の向上に向けた学協会規格の整備計画案の作成（中間報告）

63-11-11：ASME規格値を規格に取り入れる場合の取扱いに関する内規案

63-11-12：標準・規格センター運営・企画委員会審議状況

63-14-1：規格委員会からのマグネット構造規格改訂案に関する反対意見への対応について

63-14-2：マグネット構造規格改訂案に対する規格委員会委員のコメントを反映した規格修正案

63-16-1：溶接規格 2013 年追補改訂案その 1
63-16-2：溶接規格 2013 年追補改訂案その 2
63-17-1-1：設計・建設規格第 I 編 2013 年追補改訂案について
63-17-1-2：設計・建設規格 2013 年追補改訂案原子力専門委員会コメント及び対応案一覧
63-17-1-3：設計・建設規格 2013 年追補改訂案件一覧表
63-17-2：「事例規格」の適用年を変更した改訂版の提案
63-17-3：設計・建設規格第 I 編 2008 年版（2011 年追補版まで含む）正誤表提案
63-18-1：再処理設備規格 「設計規格（2012 年版）」の改訂について
63-19：発電用原子力設備規格 材料規格 SN 材の取込検討
63-20-1：事例規格バスケット用ほう素添加アルミニウム合金等に関する規定案審議項目
63-20-2：事例規格バスケット用ほう素添加アルミニウム合金等に関する規定案審議スケジュール
63-20-3：事例規格バスケット用新規材料事例規格案について
63-20-4：新規バスケット材料に対する評価結果集約表
63-20-5：新規バスケット材料事例規格案に対する原子力専門委員会書面投票コメント回答
63-20-6-1：新規バスケット材料事例規格案に対するレビュー結果
63-20-6-2：新規バスケット材料事例規格案に対するレビュー結果（その 2）
63-20-7-1：事例規格案 バスケット用ほう素添加アルミニウム合金 1%B-A3004N-H112 に関する規定案
63-20-7-2：別紙 2&補足説明資料
63-20-8-1：事例規格案 バスケット用アルミニウム合金 A3004N-H112 に関する規定案
63-20-8-2：別紙 2&補足説明資料
63-20-9-1：事例規格案 バスケット用アルミニウム合金 A3004-H112 に関する規定案
63-20-9-2：別紙 2&補足説明資料
63-22-1：渦電流探傷試験指針の維持規格への取込案
63-22-2：弁、ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適正化
63-22-3：封止溶接方法規格案
63-22-4：アライナブラケット等の個別検査対象からの除外理由
63-22-5：30 年目以降の検査プログラム変更方法の明確化
63-22-6：軽微な技術上の改訂
63-22-7：クラス 2、3 配管欠陥評価手法の改訂
63-22-8：事例規格 極限荷重評価法に用いる流動応力
63-23：ASME 規格関係委員会の活動状況報告

5. 議事内容

（1）開会

定足数の確保を確認し、森下委員長が委員会開会を宣言した。また出席者全員の自己紹介を行った。

（2）議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく承認された。

（3）前回議事録確認【資料 63-1】

事務局より前回議事録案の内容について報告が行われた。意見、気付き事項の確認を行った結果、意見等はなく、議事録案は承認された。

（4）規格委員会及び各専門委員会の委員の承認等【資料 63-2, 3】

事務局より以下の通り規格委員会及び各専門委員会委員の再任、退任、新任候補が報告され、オブザーバー／事務局退出後、委員の承認等が審議され、出席委員全員の賛成で承認された。尚、核融合専門委員会の新人候補の中嶋氏は JAEA 所属であり、JAEA からの委員が 2 名（他に小泉幹事）となるが、両名に期待する役割や専門性が異なるので両名の貢献が必要である等の推薦理由を高橋核融合専門委員長から説明し、承認された。

規格委員会

〔再任〕波木井幹事

〔退任〕牧委員、西脇委員、酒井委員

火力専門委員会

〔再任〕小溝委員長

〔退任〕高須委員

〔新任〕鈴木氏（日本電気協会）

原子力専門委員会

〔再任〕肥田委員

〔退任〕天野委員

材料専門委員会

〔再任〕増山委員長、高橋副委員長、木村幹事、浅山委員、伊勢田委員、尾崎委員、木原委員、三枝委員、澤田委員、榎木委員、田中委員、田村委員、中城委員、藤森委員、船田委員、南委員、山田委員、吉田委員、朝田委員、齋藤委員

〔退任〕扇柳委員、安藤委員、石毛委員

〔新任〕伊藤氏（IHI）

核融合専門委員会

〔再任〕高橋委員長、小泉幹事、中曽根委員、鈴木委員、宮口委員（IHI）

〔新任〕船越氏（日本鋳鍛鋼）、中嶋氏（JAEA）、清水氏（三菱重工）

〔退任〕西村委員、宮委員

（５）発電用設備規格委員会活動状況報告

（５－１）規格委員会幹事会報告【資料 63-4】

波木井幹事より第 44 回、第 45 回の規格委員会幹事会概要として規格委員会委員の貢献の多様化、原子力規制委員会関係、MDEP の進捗、設計・建設規格英訳化、原子力関連学協会規格類協議会の活動状況等について報告が行われた。

（５－２）投票結果報告【資料 63-5】

事務局より規格委員会と各専門委員会の書面投票結果について報告が行われた。

（５－３）公衆審査結果及び質問受付回答状況【資料 63-6】

事務局より発電用原子力設備規格に関する公衆審査結果と質問受付回答状況について以下の通り報告が行われた。

①公衆審査結果

以下の 5 件の公衆審査を実施。いずれも意見なし。

- ・維持規格 事例規格 Ni 基合金 BWR 環境中 SCC き裂進展線図案
- ・維持規格（2012 年版）案
- ・設計・建設規格（2012 年版）第Ⅱ編高速炉規格案
- ・溶接規格（2012 年版）案
- ・材料規格（2012 年追補）案

なお、材料規格 2012 年追補案は、JIS 等の改訂も取り込んだため差替ページがかなり多くなり、また、現在検討中の「発電用設備規格の原案策定に関する内規」では「設計・建設」、「溶接」、「材料」等の規格の改訂版発行時期を 2012 年改訂版以降統一するとの記載をしていることから、読者の利便性を図るため、追補ではなく改訂版として発行することが原子力専門委員会から提案された。審議要領上特に問題もなく、改訂版として発行することが承認された。但し、公衆審査時は「追補」としているので誤解を避ける為、規格発行時には同公衆審査結果がアップされている機械学会ホームページの該当箇所に規格は「2012 年追補ではなく、2012 年改訂

版として発行する」旨、追記することになった。

②質問回答

設計・建設規格に関してこれまで6件の質問が寄せられ、第71回原子力専門委員会において以下の5件の質問回答が承認され、質問者への回答実施&ホームページへの回答アップが行われた。

- ・QNC200590：ステンレス鋼の金属フレキシブルチューブは伸縮継手と解釈して良いか？（回答日：2012, 11, 29）
- ・QNC200598：JISG3454の年版読替（回答日：2012, 11, 29）
- ・QNC200806：試験片の採取位置に対する要求（回答日：2012, 11, 29）
- ・QNC2005100：JISG3463の年版読替（回答日：2012, 11, 29）
- ・QNC2005101：SCM435H材とSCM435材の同等性（回答日：2012, 11, 29）

なお次回以降、質問の回答状況を確認できる資料を添付することになった。

（５－４）火力専門委員会報告【資料63-7】

飯田火力専門委員会幹事より、火力専門委員会の活動状況として、各分科会の懸案事項リスト、発電用火力設備規格2012年版の出版、ASME規格値を規格に取り入れる場合の取扱いに関する内規の書面投票、2013年日本電気技術規格委員会表彰候補等に関する報告が行われた。懸案事項リストにコメントがある場合は事務局まで連絡することになった。

（５－５）原子力専門委員会報告【資料63-8】

小山原子力専門委員会委員長より、原子力専門委員会の活動状況として、原子力専門委員会での審議の充実化、引用する規格の年版等に関する提案、外部事象シビアアクシデント対策設備設計ガイドライン案の再書面投票／二次投票状況、一般要求事項事例規格案状況、設計・建設規格英訳タスク状況、維持規格改訂案の審議状況等に関する報告が行われた。

（５－６）材料専門委員会報告【資料63-9】

高橋材料専門委員会副委員長より、材料専門委員会の活動状況として、材料専門委員会課題対応状況、材料事象の解説書面投票の状況、材料規格高度化のための材料専門委員会へのレビュー依頼等に関する報告が行われた。材料規格高度化のためのレビューは方針等まとまった段階で早目に規格委員会で議論することになった。

（５－７）核融合専門委員会報告【資料63-10】

高橋核融合専門委員会委員長より、核融合専門委員会の活動状況として、超伝導マグネット構造規格改訂案の規格委員会書面投票（反対票有り）対応、各分科会活動状況、核融合専門委員会委員長選任投票結果等に関する報告が行われた。

（６）発電用設備規格委員会運営に関する審議／報告

[審議事項]

（６－１）引用する規格の年版及び規格原案策定内規に関する提案【資料63-11-1】

堂崎原子力専門委員会幹事より引用する規格の年版及び規格原案策定内規に関する提案の規格委員会書面投票結果（可決）意見対応案に関する説明が行われた。議論の結果、意見対応案は妥当であり、編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。またこれにより「引用する規格の年版について」の「2. 年版の定義」における後半の段落及び「4. 引用規格年版の扱い」の（注）の記載を削除することも併せて承認された。

（６－２）ASMEにおけるJSME/ASME Joint Task Group on System Based Codeの設置【資料63-11-2】

森下委員長よりASMEにおけるJSME/ASME Joint Task Group on System Based Codeの設置に関する説明が行われた。システム化規格概念に基づく規格策定活動をJSMEがASMEと協調しながら行うもので、そのためのタスクをASMEに設置するとの提案。システム化規格のCode Caseを共同で作成し、合せて知的所有権等に係る

扱いを明確化する予定。日米共同となると、日本の独自性が失われることはないのか？という意見もあったが、「参加者は日本側の方が多くリーダーシップを取っているので、その心配はない。」とのこと。議論の結果、設置提案が承認され、今後は標準・規格センター、理事会での承認を求めることになった。

（６－３）MDEP Convergence Board Member としての参加【資料 63-11-3】

宮口副委員長より MDEP Convergence Board Member としての参加に関する説明が行われた。これまでの MDEP の成果を踏まえ、各国 SDO 参加による Convergence Board が設置されることになり、それに対して JSME も参加することを前提に協議・調整・交渉等を行うことが承認された。ただ、課題と優先付けには留意することとし、特に具体的な Convergence の項目選定には注意することになった。今後は標準・規格センター、理事会での承認を求めることになった。尚、今回は「事前承認」との位置付けであり正式には ASME から MOU 案が提示された後となる。

（６－４）設計・建設規格英訳タスク状況【資料 63-11-4】

永田タスク主査より設計・建設規格英訳タスクの状況に関する説明が行われた。英訳作業もほぼ最終段階であり、英訳版の発行形態は発電用設備規格委員会での検討資料とし、規格の参考図書の位置付けで要請により提供することとしたいとの主旨のタスク提案が説明された。これに対して「タスクメンバーの努力の成果を委員会外部へ公開する観点で正式な図書として発行・販売すべき」や「委員会資料にままでは区分上、収益会計ではなく公益会計対象となるのでコピーサービスによる提供も出来ず、実質入手不可能となってしまうのでは」との意見もあり、今後継続検討することにした。外部への公開には native check が必要であり、その費用面の見通しが得られれば、native check 後英訳版の書面投票の実施を検討する。

（６－５）ASME 規格値を規格に取り入れる場合の取扱いに関する内規案【資料 63-11-11】

小山原子力専門委員会委員長より ASME 規格値を規格に取り入れる場合の取扱いに関する内規案に関する説明が行われた。内規案では ASME 規格値をそのまま取り込む場合は ASME の SI 単位規定値採用を基本とする。ASME 規格値を参照するものの JSME 独自の検討を行って規定値を定める場合はこれによらないが、本来の考え方を考慮する。現在、火力専門委員会、原子力専門委員会において書面投票を実施中であり、これらの書面投票結果を踏まえ、規格委員会としての内規を作成する。尚、核融合専門委員会は影響が少ないので基本的には火力・原子力の結論に従うこととし、書面投票は実施しない。最終的には規格委員会書面投票を行い、内規の承認を得る予定である。

〔報告事項〕

（６－６）規制庁の動向と学協会の対応【資料 63-11-5】

宮口副委員長より規制庁の動向と学協会の対応に関する説明が行われた。3 学協会の事務局に合った規格側委員の参加形態や委員会の録音又は速記録の公開可能性等に関する問い合わせについては 3 学協会委員長の連名にて回答を返送した。また、規制庁では現在今後の学協会規格の活用と規格策定委員会への参画等議論している。当事者（規格策定団体）不在の中、議論が行われており、今後規制庁への要望、調整が必要となる見込み。

（６－７）シビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドラインの検討状況【資料 63-11-6】

永田タスク主査よりシビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドラインの検討状況に関する説明が行われた。大体、ガイドライン案はできつつあり、次回第 72 回原子力専門委員会において書面投票提案を行う予定である。

（６－８）外部事象起因シビアアクシデント対応設計ガイドラインの書面投票提案【資料 63-11-7-1, 2】

宮口副委員長より福島原発事故を受けた外部事象起因のシビアアクシデント対応設計ガイドラインの規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。原子力専門委員会では「御意見伺い」投票以降、6 回以上の書面投票を実施しており、現在、再度の二次投票を実施している。書面投票コメントの中心はガイドラインの規定内容の適否よりも、例えば「NEI06-12 のスコープ全てをカバーすべき」、「テロ攻撃や航空機落下を含めるべき」、「PCV 冠水を規定すべき」等、ガイドラインのスコープや性格等、早急には結論が得られず、今後の課題

として JSME 内外での議論を反映して検討すべきものに移ってきている。従って、現時点ではこれ以上の調整・合意は望み薄なため、現行案にて進めることが提案された。議論の結果、原子力専門委員会二次投票可決を条件に規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(6-9) MDEP 状況【資料 63-11-8】

永田原子力専門委員会副委員長より ASME Code Week Phoenix における MDEP プロジェクト SDO 打合せ報告に関する説明が行われた。SDO Convergence Board のチャーターについて議論中。CSWG から提示された Code Harmonization に関する図書のコメント提示。Convergence Board として課題の抽出と優先度付けを行う予定。

(6-10) 一般要求事項検討タスク状況【資料 63-11-9】

小山原子力専門委員会委員長より一般要求事項検討タスクの状況に関する説明が行われた。事例規格一般要求事項案について原子力専門委員会において「御意見伺い」の投票を実施し、その結果を反映した上で、正式に原子力専門委員会書面投票を実施する予定である。なお、本件については以前に一般要求事項検討タスク報告として規格委員会 (H23.3.10) に報告し、規格委員会でも「御意見伺い」投票を実施しているが、かなり時間が経っており委員の交替等もあったので、規格委員会書面投票実施の前には規格委員会で再度内容を紹介することになった。

(6-11) 原子力関連学協会における活動状況【資料 63-11-10】

宮口副委員長より原子力関連学協会における活動状況に関する説明が行われた。原子力関連学協会が連携して福島事故以降の民間規格に関して、全 52 規格から成る整備計画案を策定し、今後策定予定である。また、各種事故調査報告書 (INPO も含めて 5 報告書) の指摘事項や提言の確認も行ったが、結果、それらのほとんどは前記 52 規格で網羅されているものの数件の追加検討が必要との結論であった。

JSME としても新規に作成する規格が増えるため、シビアアクシデント関連規格策定に関する体制を強化する必要がある。

(6-12) 標準・規格センター運営・企画委員会審議状況【資料 63-11-12】

事務局より標準・規格センター運営・企画委員会審議状況に関する説明が行われた。9 月開催の運営・企画委員会において火力 3 件、原子力 4 件の規格発行が承認された。

(7) 火力発電用設備規格に関する審議

火力専門委員会の飯田幹事より、本日の規格委員会では火力発電用設備規格に関する審議事項はないことが報告された。

(8) 材料事象規格に関する審議

材料専門委員会の高橋副委員長より、本日の規格委員会では材料事象規格に関する審議事項はないことが報告された。

(9) 核融合設備規格に関する審議【資料 63-14-1, 2】

核融合専門委員会の高橋委員長より、マグネット構造規格改訂案に対する規格委員会書面投票結果 (反対票有り) に関する説明が行われた。反対意見の内容は溶接継手の破断延性に関する検討が不十分というもので、取得データでは破断絞りが 20% 以上得られているが、溶接継手などの構造不連続部においては歪み集中係数が高く、取得データはチャンピオンデータの可能性があるというもの。議論の結果、反対票の取下げはなく、今後の対応案を採決した結果、二次投票を実施する案が 1 票、論点を明確にして再度議論する案が 20 票、保留が 1 票となり、論点を明確にして再度議論することになった。また議論する際には根拠となるデータを踏まえて議論することとした。

(10) 原子力発電用設備規格に関する審議

(10-1) 溶接規格に関する審議【資料 63-16-1, 2】

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①溶接規格 2013 年追補改訂案その 1【資料 63-16-1】

溶接規格 2013 年追補改訂案その 1 の規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。本案は既に原子力専門委員会書面投票は可決しており、議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・ 溶接士技能認証標準の合否判定基準について、引用されている WES 規格と同様なものが JIS 規格にあるため、引用先を WES 規格から JIS 規格に変更するとの提案だが、その理由は？⇒ WES 規格と同様な内容の JIS 規格が整備された為、そちらの引用に変更した。ISO では第 3 者性の観点から認証基準策定機関と認証実施機関を別にすることが一般的で、溶接協会が認証機関として活動するには認証実施基準を他（JIS）に移す必要がある為で、これは非破壊検査（NDIS と JIS の関係）においても同様である。
- ・ P-No と A-No を整合させるとのことだが、既に認証された WPS 等の扱いはどうなるのか？⇒ それが最大の課題でありこれから検討する。従って、本改訂が実際に適用可能となるのは既存の WPS 等の取扱いが明確になってから、と考えている。

②溶接規格 2013 年追補改訂案その 2【資料 63-16-2】

溶接規格 2013 年追補改訂案その 2 の規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。本案は現在原子力専門委員会書面投票実施中で、議論の結果、原子力専門委員会書面投票可決を条件に書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・ 従来の規定では例えば実際的には適用することが困難な部分溶込み溶接部に UT を適用しても良いような規定がされている場合があったりしたが、適用することが困難な非破壊試験は除外するようになっているのか？⇒ 適用が困難と考えられる非破壊試験はできるだけ除外するようにした。

（10-2）設計・建設規格に関する審議【資料 63-17-1～3】

設計・建設分科会の永田主査より、設計・建設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計・建設規格第 I 編 2013 年追補改訂案【資料 63-17-1】

設計・建設規格第 I 編 2013 年追補改訂案の規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。原子力専門委員会書面投票では 9 件の改訂案が投票されたが、「単品耐圧試験後加工部の耐圧試験」は反対票のため取下げとなり、残りの 8 件について提案された。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・ 事例規格集発行提案は投票の趣旨が不明確ではないか？元々全ての事例規格を添付するものと思っていたが、実際には出版時点で有効な規格のみである。事例規格一覧表での○の付け方等、投票の対象や範囲のポイントを明記して欲しい。⇒ 投票の対象や範囲の明確化については拝承。事例規格集の添付範囲は、基本の年版をベースに決めるのが適切であり、『過去』の事例規格迄添付することは考えていない。

②事例規格圧力容器用調質型合金鋼鍛鋼品 SFVQ1B に関する規定案【資料 63-17-2】

事例規格圧力容器用調質型合金鋼鍛鋼品 SFVQ1B に関する規定案は設計・建設規格の 2005 年版と 2007 年追補版への適用となっているが、新たに 2008 年版、2009 年追補版、2010 年追補版に適用可能とするための規格委員会書面投票提案に関する説明が行われ、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

③設計・建設規格第 I 編 2008 年版（2011 年追補版まで含む）正誤表案【資料 63-17-3】

設計・建設規格第 I 編 2008 年版（2011 年追補版まで含む）正誤表提案に関する説明が行われた。別表 1-1 の備考の記載漏れと別表 1-3 の備考の材料規格年版削除漏れに対応したもので、委員全員の賛成により承認された。なお、別表 1-3 の表中に JISG5151 の年版が残っていたため、これの削除も併せて承認された。

（１０－３）再処理設備規格に関する審議【資料 63-18-1】

再処理設備分科会の山本主査、設計規格作業会の平幹事より再処理設備規格の設計規格改訂案の規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。設計規格 2012 年版の審議の際に頂戴した御意見に対する改訂提案を行うものであり、議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・本案は 2015 年改訂版として発行を予定しているとのことだが、発電用設備規格の原案策定に関する内規では 2012 年改訂版以降の発行時期を統一することを原則としている。そのため特段の理由がなければ 2016 年改訂版か、あるいは 2014 年追補として発行を検討して欲しい。⇒ 拝承。検討する。

（１０－４）材料規格に関する審議【資料 63-19】

材料分科会の伊藤委員より、材料規格における SN 材の取込検討案に関する説明が行われた。材料規格改訂方針検討タスクにおいて審議された新規開発の建築用炭素鋼である SN 材の JSME 材料規格への取込を検討するもので、今後材料専門委員会のレビューを受けながら、適宜規格委員会に報告することになった。主な議論は以下の通り。

- ・これは JSME 材料分科会としての自主的な取り組みか？⇒ そうである。
- ・材料データはどこが採取するのか？⇒ 電中研である。
- ・SN 材は JIS 化されているが、JIS 化の際の材料データは利用できないのか？⇒ JSME 材料規格への取込のためには高温データが必要になるが、その様なデータは JIS 化の際には取られていない。

（１０－５）使用済燃料貯蔵施設規格に関する審議【資料 63-20-1～9】

使用済燃料貯蔵施設分科会の三枝主査、片山副主査、下条委員、石生委員より金属キャスク構造規格 新規バスケット材料事例規格案の規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。本案は既に原子力専門委員会書面投票可決済で、議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・今回事例規格が 3 案あるが、メーカー毎に事例規格を作るのではなく、まとめて標準化できないのか？⇒ 3 案共、内容が違うのでそれぞれ作成している。
- ・今回の資料でメーカーノウハウが含まれているものがあるが、規格委員会資料であれば外部から閲覧要求があれば開示する必要がある。資料の取扱いは大丈夫か？⇒ 一連の説明資料のうち補足説明資料はメーカーノウハウが含まれる参考資料なので、公開対象外としたい。⇒ 「緊急避難」として補足説明資料は委員専用ウェブ上のみに掲載することとして、外部には開示しないこととする。但し、今後も同様な課題が予想されるので知的所有権に絡む資料の取扱い等を規格委員会幹事会で検討する。

（１０－６）維持規格に関する審議【資料 63-22-1～8】

維持規格分科会の野村主査、検査作業会の寺門主査、評価作業会の北条主査、補修作業会の山本主査より維持規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①渦電流探傷試験指針の維持規格への取込案【資料 63-22-1】

規格委員会書面投票（可決）意見対応案に関する説明が行われた。議論の結果、意見対応案は妥当であり、編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・渦電流探傷試験の判定基準に関しては、EA-3000 の考え方によるということであるが、それはあくまでも何らかの判定基準が規定されていてそれに対して別の妥当性のある判定基準も適用できるというものである。渦電流探傷試験についても何らかの判定基準を個別に規定すべきではないか？⇒ 評価関係はクラス 1 機器の欠陥評価法に追加して規定してきているので、読みにくいと以前にも指摘されており課題として認識している。今回の提案は JEAG として表面検査の渦電流探傷試験の規定ができたので、それを反映することが改訂の主目的であり、判定基準の明確化は今後の課題として継続検討したい。

②弁、ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適正化案【資料 63-22-2】

規格委員会書面投票（可決）意見対応案に関する説明が行われた。議論の結果、意見対応案が妥当であることが委員全員の賛成により承認された。

③封止溶接方法規格案【資料 63-22-3】

規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

④アライナブラケット等の個別検査対象からの除外理由案【資料 63-22-4】

規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。本案は現在原子力専門委員会二次投票実施中であり、議論の結果、原子力専門委員会二次投票可決を条件に書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

⑤30 年目以降の検査プログラム変更方法の明確化案【資料 63-22-5】

規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

⑥軽微な技術上の改訂案【資料 63-22-6】

規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。改訂案のうち、ステンレス鋼の材料定数の修正は原子力専門委員会二次投票実施中であるため、議論の結果、これ以外の改訂案の書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

⑦クラス 2、3 配管欠陥評価手法の改訂案【資料 63-22-7】

規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・クラス 2、3 配管の欠陥評価手法を規定することにより、どのような利点があるのか？⇒ 従来はクラス 2、3 配管でき裂があった場合、取り替えるか、あるいはクラス 1 配管の規定を準用して評価するしかなかったが、今回の改訂案によりクラス 2、3 配管の欠陥評価ができるようになる。

⑧事例規格 極限荷重評価法に用いる流動応力【資料 63-22-8】

規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（1 1）関連機関状況報告【資料 63-23】

伊藤委員より ASME 規格関係委員会の活動状況について紹介が行われた。

（1 2）今後の予定

今後の発電用設備規格委員会の開催予定は以下の通りとなった。

第 64 回規格委員会：2013 年 3 月 13 日（水）10:00～17:00 JSME 第 1 会議室

以上